

漁場改良復旧基礎調査

— 陸 奥 湾 —

センター分調査結果について

(要 約)

尾坂 康

この調査は、将来、産業排水等の継続的な集積等により海域に堆積した汚染泥が赤潮、無酸素水塊等の発生要因となり、底棲生物の生息、繁殖を阻害し、水産資源に重大な影響を与えることに鑑み、漁場環境保全対策を講じていくうえに必要な資料を整備していくために、水産庁が実施したものである。

当センターでは、132点の調査地点の中から陸奥湾の横断方向の12点の試料（柱状採泥試料10点を含む）について分析を行なった。

調 査 方 法

調査年月日 昭和52年7月10日～同年8月3日

調査地点 東湾、西湾を横断する9測点、青森湾東沿岸の3測点

調査項目 水分含有量、粒度組成、強熱減量、全硫化物、全炭素

調 査 結 果

1) 粒度の鉛直分布

沿岸部を除いて泥分は非常に高く、特に湾中央部においては全層（柱状採泥試料長一最長のものは142cm）において80%以上であった。また、試料の中には、細～粗粒の軽石、石英が混在するものもあった。

2) 強熱減量の鉛直分布

表層部で高く、下層部で低い傾向にあり、また湾中央部で特に高い値を示した。

3) 全硫化物の鉛直分布

表層部で高く、下層部で低い値を示した。特に東湾中央部、青森湾東沿岸部で高い値を示した。

4) 全炭素の鉛直分布

東西両湾を横断する測点、青森湾東沿岸の測点とも、水平方向では沿岸部ほど低く、鉛直方向では表層部ほど高い値を示した。

詳細は、「昭和52年度 漁場改良復旧基礎調査報告書—陸奥湾— 水産庁 昭和53年3月」を参照されたい。